

Close-up



さらかわ子ども文化体験フェスタを開催しました

7月27日、サンパール荒川で「さらかわ子ども文化体験フェスタ」が開催されました。イベントでは、華やかな衣装に身を包んだ子どもたちの日本舞踊の発表に続き、民謡、詩吟などが披露されました。また、さまざまな体験をしながら学べる教室では、それぞれ興味を持った体験教室に参加して、作法や技術を教わり真剣に取り組んでいました。

問合せ:生涯学習課 ☎内線3355



民謡の発表



将棋の体験



盆栽の体験

さらかわ生き物探し

クイズの答え

A1 ×

「アキアカネ」は卵からふ化してヤゴになり、6月頃、稲の茎などにのぼって羽化し成虫になります。

A2 ×

「コガモ」は日本の水辺でよく見られるカモの中でも特に小さい種類ですが、「マガモ」の赤ちゃんではありません。

A3 ○

「タコノアシ」の穂は秋になると赤くなり、まるで茹でたタコの足ようになります。

日暮里道灌まつり開催!

日時:11月1日(土)午前10時~午後3時 場所:日暮里駅前イベント広場

室町時代に江戸城を造ったといわれている武将・太田道灌。太田道灌ゆかりの地の自治体などの皆さんと一緒に、名産品の販売やステージイベントを行う日暮里道灌まつりを開催します。

紙芝居の上演やカッコイイ富士の甲冑隊のステージショー、ステキな名産品の販売など盛りだくさんのイベントだよ。ぜひ、遊びに来てね!

太田道灌ゆかりの自治体・店舗による物販販売・PR

ご当地グッズや野菜などの名産品、荒川区ゆかりの江戸東京野菜である三河島菜の販売、リサイクル図書配布などを行います。



ステージイベント

おまつりを盛り上げる演出をたくさん用意しています。



手作り甲冑着付けと武者メイク体験

神奈川県伊勢原市の伊勢原手作り甲冑の着付けや「顔師」宮田肇さんによる武者メイクも体験できるよ!



三河島(現在の荒川地域)に残る「山吹の里伝説」とは

鷹狩りの途中で雨に降られた道灌が民家に雨具の「蓑」を借りに行くと、その家の少女は「蓑」ではなく山吹の花の枝を差し出しました。道灌は腹を立てて帰りますが、兼明親王の古歌「七重八重花は咲けども山吹の実のひとつだになきぞ悲しき」に基づいて、蓑が無いのを「実のひとつだになき」にかけていたものだったと知り、和歌の知識がなかった自分を恥ずかしく思います。この出来事がきっかけで道灌は和歌の勉強に励んだ、という伝説があります。



吉村昭記念文学館 ~吉村昭と文学の魅力~ vol.4

問合せ吉村昭記念文学館 ☎(3891)4352



戦争関連の証言を記録したカセットテープは、100本以上になったそうだよ 『戦史の証言者たち』 昭和56年 毎日新聞社

吉村昭のベストセラー小説『戦艦武蔵』

今年は、戦争が終わってから80年という、とても大切な年なんだ。吉村昭は、戦争についてたくさん本を書いた小説家だよ。

吉村昭は、戦争の時、現在の東日暮里に住んでいて、空襲を体験したんだ。そして18歳の時に、戦争が終わったんだよ。

戦争に日本が負けた、ということが信じられなかったけど、それよりも、大人の人たちの態度がガラッと変わったことに、すごくびっくりしたんだって。「戦争中、私と同じように一心に働いていた人々の群れは、いったいどこへ行ったのだろう」と「二つの精神的季節」(『精神的季節』昭和47年講談社)に書いているよ。

吉村昭は、「人間は背景によって変色するもろさ」を持っていて、「本当の戦争のこわさは、人間を変質させることにある」(『日本経済新聞』昭和47年(月日不詳))って考えて、自分が見た戦争のこと、日本人のことを書くことと決めたら。そして、『戦艦武蔵』という、とても長いお話を書き始めたんだよ。

吉村昭は戦争を体験した人に直接会って、お

話を聞くことにとっても力を入れたんだ。本には載っていない、生の声を聞くことで、もっと書きたい気持ちになったんだって。

『戦艦武蔵』ってどんな本?

『戦艦武蔵』は、小説家としての私の「視野を極度に拡大させてくれた、記念すべき小説である」と思っていると『吉村昭自選作品集』第2巻「後記」(平成2年 新潮社)の中で書いているよ。

『戦艦武蔵』は、昭和13年に長崎の大きな工場場で作り始められた「武蔵」という戦艦のお話だよ。当時の日本の技術を使って、約4年かけて秘密で造られたんだ。この本では、武蔵が造られる様子を中心に、計画から武蔵が海に沈むまでが描かれているんだ。

展示室には、戦艦武蔵のプラモデル(製作:株式会社童友社)250分の1サイズが、展示されているよ。ぜひ、見に来てね。今回紹介した本も読んでみよう!



『戦艦武蔵』昭和46年 新潮文庫刊